

失業・貧困と社会的排除

佐藤郁成

現代における貧困とは、生存が難しいといった意味の絶対的貧困ではなく、等価可処分所得が等価可処分所得の中央値の半分以下」と定義される、「全体で見たとき、相対的には貧困にあたる」ということを示す相対的貧困を指すことがほとんどである。そういった貧困状態にある人々が直面しやすい、「様々な社会関係からの排除、帰属の欠如」である社会的排除状態について概観しながら、排除しない社会形式の考察を試みる。

1章では、社会的排除概念のヨーロッパでのルーツに触れ、貧困概念との関係を図示しつつ、社会的排除が「負の循環」を生み「疎外メカニズム」を形成することで、それに直面した人がそこから抜け出しづらくなる構造を整理した。また、社会的排除概念の分析範囲の多面性を示した。

2章では、「日本型社会システム」が形成する典型的な価値観の刷り込みが社会的排除の一因となっている可能性を指摘し、社会的排除を受けた人々がどのようになってゆくのかを、何も失うものがないゆえに反社会的行動に至る「無敵の人」の例とともに分析した。

3章以降では、前章までをふまえ、人生を五つの段階に分け、それらの段階どうしの行き来をスムーズにすることで社会的排除の原因を取り除こうとする「交差点型社会」を挙げ、排除しない社会形式に必要なものが「社会システムと人々の意識づけ」であることを述べた。